

## 序

松本英紀先生は、一九六六年に立命館大学文学部史学科東洋史学専攻を卒業され、続いて同大学院文学研究科東洋思想専攻に進学され、六九年に修士課程を修了されました。七一年から、京都大学人文科学研究所共同研究班員となられ、「辛亥革命研究班」、「五四運動研究班」、「国民革命研究班」に籍をおかれ、八八年まで班員としての研究を続けられました。この間、八〇年四月に立命館大学文学部助教教授に就任され、八九年に教授にご就任。二〇〇一年には、博士（文学・立命館大学）の学位を取得されました。また、京都大学、仏教大学、大谷大学などにも非常勤講師として教鞭をとられたりいたしました。

先生は、辛亥革命を中心としたご研究において独創的な成果をあげられ、特に清末・民国初期の政治史における宋教仁の評価を学界に定着させることに力を注がれました。学位論文である『宋教仁の研究』により、先生は、我が国における宋教仁研究の第一人者たる地位を築かれました。

一〇年余りの年月を費やして完成された『宋教仁の日記』（一九八九年、同朋舎出版）の翻訳と注釈は、高い評価を受け、第二回「アジア・太平洋賞 特別賞」（毎日新聞社、アジア調査会）を受けられました。

先生は、こうしたご研究の成果を海外の国際学会などでも積極的に講演や研究発表を通して世に問われ、主なものに限っても、「辛亥革命七十周年記念国際学会」（一九八一年、於・北京、武漢、広州）、「孫文とその時代国際学会」（一九八六年、於・広州）、「宋教仁生誕一〇五周年記念国際学会」（一九八七年、於・湖南・桃源）などがあげられます。国内におけるご活躍も多くありますが、神戸の舞子に設けられた孫文記念館の学術員として、その創設に参画されたりもしています。

さらに、東洋史学専攻や大学院において、緻密で大胆な発想を身につけた人材を育てられ、中国からの多くの留学生も有為の研究者として育成、指導されました。学位を取得して帰国し、現在、母国の大学で教壇に立っている人たちも少なからずおります。

松本先生は、その研究されている対象から、硬骨漢というイメージを抱かれることが多いかも知れませんが、私は二〇年近く先生と同じ学部へ属し、数少ない機会ですがお話をして得た印象は、はずかしがり屋でナイーブな方だというものです。一方で、教授会などでは、

はつきりと自らの信じるところを比較的強い調子で述べられるものですから、人によっては印象が異なるかも知れませんが。いずれにしても、率直でまっすぐなお人柄だと拝察しております。先生に傾倒する学生の多い所以と存じます。今後も、後進の指導や学生たちの教育にあたられます先生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

松本英紀先生に対し、学校法人立命館は名誉教授の称号をお贈りし、その長年のご貢献を讃えます。本会は、ここに、先生のご功績と学恩に深い謝意を表し、このご定年記念の論集を編み、先生に献呈いたします。ありがとうございます。

二〇〇八年十二月

立命館大学人文学会会長

文学部長 木 村 一 信